

YMCA News




震災10年で思うこと



10年という年月は長いもので、歳もとれば環境も変わる。「去る者日々に疎し」というように、ひとの心も離れていきます。そんな今、この原稿依頼をいただき、とてもとてもうれしく、宮古での活動に喜びを感じました。そして活動当時振り返りました。お茶っこで笑っていた仮設住宅の〇〇さんはもう90歳…。キャンプで遊んだあの子はもう大学生？命を守る救急法講習会で「私看護師になります!」と決断してくれた高校生は今、コロナ禍で頑張っているのだろうか…。

先日震災の番組を視ました。町の風景が変わりました。大きな防潮堤が出来ました。列車が開通しました。「簡単に絆って使うけどホンマか!」「スーパーボランティアのスーパーってなんやねん!」そして宮古を去り大阪から、どんな(大きな)支援ができるのだろうかと考えていた自分。何か違和感を覚えます。

宮古の人たちと別々の生活が流れますが、つながっていた想いの強さや、今回の原稿依頼で嬉しい気持ちになったわけ、今その意味がわかった気がしました。「復興支援」が目に見える環境変化ではなく、何かの折々にあのひと達を思い、今もあの人自分が自分を想っていて(支えていて)くれる。互いにつながっている自信こそ「絆」であり、互いのこころの復興支援だと思いました。私たちにできることはつながり続けること。新しいつながりを作ることが、「復興支援」の枠を越えた、次の20年30年後にも必要なものだと考えます。

元 盛岡YMCA宮古ボランティアセンター長
(2012年度、13年度大阪YMCAより出向)
現 社会福祉法人 大阪YMCA
YMCAサンホーム在宅 支援事業部主任 木田泰之

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。



11月13日、14日に宮古市でプログラミング体験会を行いました。当日は、小学5年生から中学2年生の8名の子どもたちと10名のリーダーが参加しました。この体験会は、りんりんリーダーとこんぶリーダーの地元である、宮古市の子どもたちが、プログラミングに触れ、面白さを知り、将来への視野を広げるきっかけを作りたいという思いから企画しました。今回の体験会は2度目の開催であった為、前回の反省を踏まえながら、教え方やゲーム、席の配置など、当日に向けてたくさんの準備をして臨みました。

体験会では、プログラミングの基礎を学び、オリジナルのホームページを制作します。参加した子どもたちは、写真の大きさやフォントにこだわりながら、自分の好きなゲームやアニメの紹介など、世界に一つだけの素敵なホームページを制作していました。

そして、体験会の中では、ゲームをしたり、みんなで昼食をとったりする時間もありました。初めは緊張していた子どもたちも、徐々に緊張がほぐれ、2日間を通してとても楽しい雰囲気が進めることができました。

また、子どもたちは、普段関わることの少ない大学生との交流も楽しんでいる様子でした。これからも、様々なイベントを通して宮古市の子ども達と交流を深めていきたいです。

村上詩織(こんぶリーダー)



右：長澤実花（りんりんリーダー）
左：村上詩織（こんぶリーダー）
2人とも宮古出身のリーダーです。

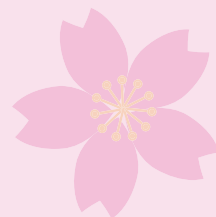
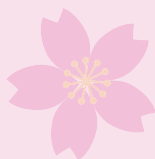
卒業するリーダーより



今年10名のリーダーが大きな希望とともに羽ばたきます。

小学校の先生、保育士、市役所、大学院、IT企業などなど、進む先は色々。

YMCAでの色々な経験を活かし、これからの新しい道でもたくさんの人と繋がりを活躍していってくれることを期待しています。



こんにちは!はっちです!この度YMCAのリーダーを卒業しますが、この4年間で、たくさんのことを発見でき、たくさんのものを得ることができました。自分と、子どもたちと向き合い、自分自身の強みや弱みを知ったり、自分の新しい一面に気づいたり、子どもたちのパワーに圧倒されたり、子どもたちの強さに驚いたり、新鮮な毎日でした。

活動の中でたくさんの人に出会いましたが、どの出会いも私にとって、とても大切に、自分を成長させてくれるものでした。良い縁に恵まれて、素敵な人たちと関わることができ、運がよかったと心から思います。そして、関わって下さったみなさまに心から感謝しています。楽しい4年間でした!本当にありがとうございました!

岩手大学4年 佐藤亜美(はっちリーダー)



こんにちは!岩手県立大学4年の、じーこと、石川万里子です。いろいろな活動に参加させていただき、「子どもたちのために」を念頭に置きつつ、思いっきり子どもたちと遊ぶことの楽しさ、素晴らしいさを、身をもって学ぶことができました。子どもたちの成長の過程に少しでも携われたことがとても嬉しく、普通の大学生活を送っていたら味わうことのできなかった、貴重な経験ができたと思っています。そして何より、素敵な仲間と出会えたことが私の中での大きな誇りです。春から私は保育士として働きますが、YMCAの活動を通じて学んだこと、感じたことを子どもたちや社会に還元していきたいと考えています。4年間本当にありがとうございました!

岩手県立大学4年 石川万里子(じーこリーダー)



今年度で盛岡YMCAを卒業いたします、イソジンです。たくさんの人と出会い、支えられながら活動した、実りある4年間でした。主に参加したサッカーの活動では、技術面、精神面ともに成長し続ける子どもたちを間近で見ることができました。YMCAの活動を経て、私の小学生に対するイメージは大きく変わったように感じます。自ら考えを持ち、行動する子どもたちの姿を見て、教えることだけが支援ではないと考えるようになりました。このような新しい気付きを得ることができたのも、YMCAという環境があったからこそだと思います。今後もYMCAが、多くの人にとって学び成長できる場であることを願うとともに、今までお世話になった全ての方々へ感謝申し上げます。

岩手大学4年 高橋広徳(イソジンリーダー)



こんにちは!笑うと光る前歯がトレードマークのにぼしです!あっという間に4年が過ぎ、卒業を迎えることにとても驚いています。高校3年生の時に盛岡YMCAの存在を知り、大学生になったら絶対参加するぞ!と意気込んで入りました。活動を重ねるごとに子どもたちと関わる楽しさやリーダーの魅力を知りました。時に悩み、考えて、相談していく中で自分自身が成長したことを実感しています。この4年間で、人と関わる楽しさを知ったこと、自分自身の新しい一面を知れたことなど盛岡YMCAでの活動は私自身に大きく影響しました。リーダーとして活動できてよかったです!今まで支えてくれた皆さん、本当にありがとうございました!!

岩手大学4年 榊原夢花(にぼしリーダー)

宮古教育相談会 ～子どもの心を支えるために～

4 質の高い教育を
みんなに



盛岡YMCAでは、東日本大震災発災直後から、岩手大学との連携の下、学生・大学教職員によるボランティア活動を宮古市を中心に行ってきました。

沿岸でのボランティア活動の内容は、初期のがれき撤去・泥出しから仮設住宅での交流へと推移していきました。これらが終息したところで、盛岡YMCAでは宮古の子どもたちを対象にして実施する野外活動等へと、活動を教育分野にシフトしました。

そして、震災10年を節目に、今後の復興支援のあり方として、教育面からの子どもの心を支える活動の重要性をさらに認識し、学校教育にかかわる相談会を企画し、2021年3月6日(土)に第1回を開催、この3月5日(土)で4回目の開催となりました。



盛岡YMCA主催とし、宮古だけでなく久慈や大船渡など沿岸で勤務する岩手大学ボランティアサークルOB・OG、岩手大学教職大学院OBを中心に、今日的な教育の話題や現場での授業づくりなどを語り合っています。



震災後に生まれた子どもたちが小学校に入学し、高学年になってきています。震災の記憶の風化が懸念されますが、震災後の世代にも、2011年3月11日の出来事はなお深く影響を与えています。心を支える教育の必要性はいつそう高まっているということができます。

宮古教育相談会はささやかな会ですが、沿岸の復興のために教育現場で尽力されている先生方、関係の方々を少しでも応援できるように、細く長く続けていければと願っています。

植草学園大学教授
盛岡YMCA 常議員理事 名古屋恒彦



こんにちは!ほやです!ついに卒業の時が来てしまい驚くばかりです。YMCAでは、笑顔いっぱいの子ども達、一緒に活動してくれたリーダー、私達を支えてくださったスタッフやワイズメンズクラブの方々、保護者のみなさんとたくさんの人に出会うことができました。突然ですが、私の短所として緊張しやすいことがあり、自分をダメだと思う時があったのですが、活動を重ねて、たくさんの人とつながっていく中で、その短所も自分の個性の1つとして前向きに捉えられるようになりました。このようにYMCAでは、人との出会いやつながりがもたらす力の素晴らしさを実感することができました。「ほや」として、みなさんと出会えたこと、つながれたことを心から感謝しています。本当にありがとうございました!!

盛岡大学4年 佐藤彩苗(ほやリーダー)



こんにちは、かきぴーです。雨水の候、昨今の新型コロナウイルスの影響で活動が制限されている中、いかがお過ごしでしょうか。私はこの大学4年間を振り返ってみて、こんなにも彩ることができたのは、様々な経験をさせてもらった盛岡YMCAに関わっている皆さんのおかげだと考えています。というのも、私が盛岡YMCAに関わる中で得た一番の学びは「自信を持つこと」だからです。その自信が様々な活動を通して、周りの人と何かを成し遂げるために、自分らしさを引き出させてくれました。最後に、ニューノーマルな時代となりましたが、この経験が社会に活かせることを強く願いつつ、何らかの形で皆さん自身の「自信」により花が咲くことを強く願います。本当にありがとうございました。

岩手県立大学4年 菅野真矢(かきぴーリーダー)



4年間私を支えてくださったスタッフの皆さん・ワイズメンズクラブの皆さん・先輩や後輩のリーダーの皆さん、ありがとうございました。私がこれまでリーダーとして活動してこられたのは、いままで直接関わってきた方々は勿論、私たちがのびのびと活動することができるように、環境を整えてくださった全ての方々のおかげです。本当にありがとうございました。盛岡YMCAで様々な子どもと接してきた経験のおかげで、物怖じせずどの子どもにも積極的に接することができるようになったと感じております。私は、来年から子どもの前に立つ仕事に就きますが、盛岡YMCAで学んだことや感じたことを活かしながら頑張っていきたいと思います。

盛岡大学4年 渡邊拓人(シナチクリーダー)



今年度で盛岡YMCAを卒業します、ズッキーです。はじめは、自分が好きだった水泳を、子どもたちと一緒にできるっていいな!という思いから水泳の活動に参加していました。主に水泳の活動に参加していましたが、学童やワイズメンズクラブのイベント、リーダー会等で幅広い年齢のたくさんの人達と出会い、支えてもらいました。子どもたちやリーダー、スタッフからの様々な視点で発見や学びがあり、悩むことや自己を見つめる時間もありと、とても充実した4年間でした。全てが素敵な経験と時間です。私に出会ってくれた全ての方々に感謝しています。ありがとうございました。

盛岡大学4年 鈴木夕喜(ズッキーリーダー)



岩手県立大学4年のクララです。私は主に、野外活動やサンデースクールに参加していました。子どもたちと関わる活動以外では、福島スタディツアーに参加するなど、多くの活動に参加し、様々な環境に身を置くことで、自分自身も大きく成長することができたと確信しています。盛岡YMCAで4年間活動した中、一番心に残っている言葉があります。それは、「一つ一つが子どもの成長の糧になる」です。

コロナ禍で思うように活動ができないという経験をし、子どもたちとそして仲間たちと直接会って活動できることの嬉しさを知りました。当たり前だと思っていたことが、当たり前ではない世の中になっています。一期一会の出会いを大切に、春からも頑張ります。4年間ありがとうございました。

岩手県立大学4年 小田愛海(クララリーダー)



盛岡YMCAでの4年間は、本当に濃いかけがえない時間でした。活動していく中で、悔しい思いをしたり、弱い自分と向き合うことから逃げたくなったりすることもありました。でも、そんな私にいつもあったかい気持ちをくれて、大切なことに気づかせてくれたのは、子どもたちでした。子どもたちのいろんな表情に何度も心が動かされ、私ももっともって成長したいと思えました。人と関わることは、難しいけれど楽しい!チャレンジすることは、ドキドキするけど面白い!そんなことを感じる事ができた4年間を、仲間たちと過ごせたこと、多くの人に支えていただいたこと、心から感謝します。本当にありがとうございました!おむすびでよかった!

岩手大学4年 齋藤七穂(おむすび)



【ミイ】



こんにちは!ムーミンに出てくる玉ねぎ頭のリトルミイが大好きなミイです!私の持ち物や部屋の中はリトルミイグッズでいっぱい!!背が小さいけど毒舌な所が好き!ミイは盛岡大学文学部児童教育学科の1年生で、小学校の先生になるために勉強しています。地元は八戸で、今は盛岡で一人暮らしをしています。最近ハマっていることは料理をする事で、最近毎日大学にお弁当を持って行っています。得意な教科は音楽で、ピアノを弾くことが大好きです。小学1年生から大学に入る直前までピアノを習っていたので、ピアノ漬けの毎日でした。今も大学にピアノがあるので時間がある時は弾いています。弾きたい楽譜は迷わず買ってしまっているので今では数え切れないくらいの楽譜を持っていて、好きな時に好きな曲を弾いています。ピアノを弾いていると心が癒されて幸せな気分になれるので、私にとって必要不可欠な存在です。歌を歌うことも大好きなので弾き語りをする事もあります。ちなみに弾き語りで好きな曲は、aikoの「カブトムシ」です。音楽は人の心を動かしてくれるとても素敵なものです。私もそんな音楽のような存在になれるといいなと思っています。ちなみに最近弾いている曲は「君の名は」の主題歌だった「なんでもないや」で、私の大好きな曲です。その主題歌を歌っているRADWIMPSというバンドも大好きです。

YMCAはSNSで知って楽しそうだなと思って入りました。夏は宮古に行って3泊4日のキャンプに行ったり、野外活動では釣りや馬っ子パークに行ったり、ファミリーサッカーフェスティバルや宮古でのプログラミングを教える活動にも参加しました。他にも沢山の活動に参加しました。実際子どもたちと関わってみて、とっても可愛くていつも元気をもらっているし、多くの経験をさせてもらって感謝しています。先輩やスタッフの方たちの子どもたちの関わり方見て、私もそんな風になれるように、自分を最大限に生かして精一杯活動していこうと思っています。



盛岡大学文学部児童教育学科1年
速応唯花 (ミイ)

表紙の写真から



東日本大震災から11年が経とうとしています。盛岡YMCAは宮古教育相談会等引き続き活動を継続していきます。

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。



ホームページ



facebook



instagram



『みんなに やさしく』

パット・ズイトウロウ・ミラー ぶん ジェン・ヒル エ
ドリアン助川 やく イマジネーション・プラス発行



タニーシャという女の子が、新しい服にグレープジュースをこぼしました。みんな笑いました。わたしも笑っちゃいそうでした。でも、ママから【いつも人にやさしくなさい】と言われていました。

それを思い出して、「やさしく」する気持ちになってみようと思いました。

そんなページから始まる絵本。この子は、タニーシャのことを考えます。

そして、「やさしく」ってどんなことだろうと考え始めます。自分ができることは、こんなこと?あんなこと?たくさん考えます。そんな中、「やさしく」するって簡単なことなのかもしれないと気づいた私は、ママからも誰でもできる「やさしく」を教えてもらいます。

でも、「やさしく」するって難しい時もある。みんなが「やさしく」ないとき、友達のために勇気を出すのは本当に難しい、それにすごく怖い。

タニーシャという女の子が、新しい服にグレープジュースをこぼしました。私に出来ることは、彼女の横に座って絵を描いてあげること。だって…。

私たち1人1人に出来ることは、きっと小さなこと。でも、その小さなことがつながれば何か大きなことになる。町にも国にも、いやもっともっと広がって世界中にも。

そして、私たちのところに戻ってくる。それで、また「やさしく」なれる。

でも、「やさしく」するって難しい時もある。みんなが「やさしく」ないとき、友達のために勇気を出すのは本当に難しい、それにすごく怖い。

の1文はすごくすごく共感できる文ではないでしょうか。でも、すごいことはしなくて大丈夫。小さな「やさしく」をちょっとだけ出来れば、みんな「やさしく」なるのでしょうか。

盛岡YMCA 浅沼慧

(2022年2月25日現在)敬称略

●維持会員

山本常雄、古澤伸、長岡正彦、吉崎陽、光永尚生、上條直美、工藤悦子、佐藤翔、大関靖二、人見晃弘、押切梓、増田隆、一戸貞文、若井淳、高橋奈菜、伊藤眞一郎、伊藤みどり、及川茂夫、accommon、森山日菜乃、森山幹大、伊藤眞太郎、伊藤愛美、伊藤信彦、浅沼誠久、清水治彦、今野健男、武田理恵子、川坂保宏、魚住恵、魚住英昭、高橋友恵、熊谷亜希子、高瀬稔彦、田村育代、滝川佐波子、井上修三、井上優子、井上浩太郎、濱塚有史、水野暢夫、角谷晋次、尾形裕一郎、菅原茉莉奈、小川嘉文、小川明佑、東森聡、茶畑大地、浅沼慧、浅沼美希、武田悠、中村涉、濱塚直樹、濱塚牧人、清水弘一、及川忠人、宮澤秋彦、中村亮介、水田賢次、松尾聡子、田村治之、名古屋恒彦、名古屋理恵、山田拓路、西野和真、花田瞳、小林明彦、菊地弘生、山口貴伸、深澤秀男、深澤多紀子